

### 流れ星の教皇様



上智大学神学部教授

ホアン・アイダル

Juan Haider, sj

#### 【来日前】

二〇一七年の初め、上智大学は教皇フランシスコに、学生と教職員を激励するメッセージを送って頂けないか、お願いをしました。それに加えて、無理は承知で「映像回線を通じて、教皇様と学生たちが対話出来たら理想的です」ともお伝えしました。教皇はあのようなお人柄ですから、映像回線での対話を選び、「わたしが訪日する可能性はほとんどなさそうですから、学生と対話するには映像回線が良いでしょう」というお返事をくださいました。こうして二〇一七年の終わりに、映像回線を通じての対話を実現したのです。

今回の来日の際、わたしは教皇に、教皇様が日本にいらっしやることは決してないと思っていました、と話しました。これに対し教皇は「わたしもそう思っていました。けれども聖霊は違う考えをお持ちだったのです」と仰いました。わたしたちは教皇の来日について考える際、このことを心に留めておく必要があると思います。今回のご訪問は、聖霊のお考えだったのです。そしてこれこそが、今回の教皇来日が多くの人にとって神様のお恵みになると

信じなければならぬ、最大の理由なのです。わたしたちはおそらく、聖霊がどこで実を結んだのかを知ることは決してありません。しかし、聖霊はいつも、わたしたちが想像するよりもずっと多くのことをなさるといことは確かです。

#### 【来日】

教皇フランシスコの今回の短い日本滞在について言えることはいくらかでもありますが、ここでは二つの点に触れたいと思います。一つ目は、教皇は大きな集会よりも、人々と個々に会い、語り合うことの方を楽しんでおられたようだとことです。どの集会でも、教皇は集まった人たちのそばに行き、彼らの話を聞いて、彼らに言葉をかけていらつしやいました。これは個人的な意見ですが、このことは教皇が、神様がお創りになった被造物を見るそのまなざしと関係があるのだと思います。教皇フランシスコは、善い行いというのはいつも小さいが、これが神の国を築く唯一の道であると信じておられるからです。神様は小さな方法で大きな奇跡を起こすことのエキスパートなのです。



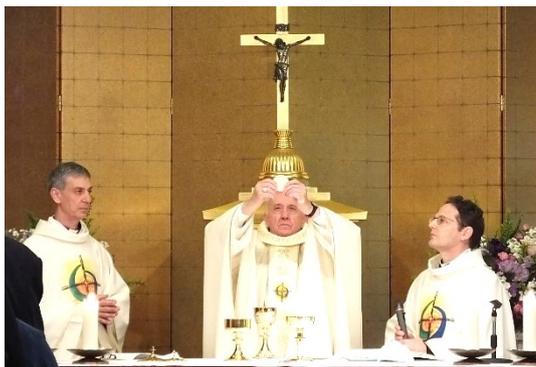
© alice

教皇の日本滞在についても一つ触れておきたいのは、教皇が信じられないほど体力をお持ちだということ。以前、毎日マテ茶を飲んでいたので疲れ知らずなのだと思っていたことがありました。このような小さな奇跡を説明するのに、どうもマテ茶だけでは説得力がないように思われます。教皇は、イエスの「疲れた者、重荷を負う者は、だれでもわたしのみに来なさい。休ませてあげよう」(マタイ十一章二十八節)という言葉が正しいことを証明する、生きた証拠だとわたしは思っています。

信じておられるので、最大の理由なのです。わたしたちはおそらく、聖霊がどこで実を結んだのかを知ることは決してありません。しかし、聖霊はいつも、わたしたちが想像するよりもずっと多くのことをなさるといことは確かです。

#### 【来日後】

メキシコの福者でミゲル・プロ神父というイエズス会士がいます。この人は、日常生活の中のイメージを使って人々にキリスト教の教えを伝えたことで有名です。かつて、プロ神父は、神様がどのようにしてわたしたちにお恵みくださるかについて、以下のように話しました。「神様のお恵みは流れ星に似ています。ある人々は他のことをするのに忙しくて、星が流れたことに気づきません。別の人たちは星を見て『何て美しいんだ』と言うけれども、自分たちの仕事に戻ると星のことはすっかり忘れてしまいます。しかし、また別の人たちはこの星のことを心に留めるので、彼らの人生は少しだけ美しさを増し、さらにこの人たちは、この星を見なかつた人たちにその美しさを分かち合うことさえできるのです。」わたしは、教皇の今回の訪日についても同様のことが言えると考えています。来日は、流れ星のようでした。今回の来日中に教皇がわたしたち一人一人に語りかけてくださったメッセージについて考え、そして何よりも、このお恵みが実を結ぶように神様に祈る必要があります。非常に多くの人たちが神様のお恵みを待ち望んでいるのですから、わたしたちは今回いただいたお恵みを自分の心の引き出しにしまい込んでしまおうわけにはいかないのです。



ミサを捧げる教皇とアイダル神父(左)、レンゾ神父(右)

